

学部 / 看護専門領域 / 看護の実践

科目コード:120401

## 母性看護学実習 Practicum:Maternity Nursing

担当教員	米田昌代、桶作梢、野沢ゆり乃				
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院等の勤務経験がある。				
開講年次	3年次後期	単位数	2	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	90		
Keywords	妊婦の看護、産婦の看護、褥婦の看護、新生児の看護、母子の継続看護、社会資源、周産期病棟の看護管理				
学習目的・目標	<p>【目的】 マタニティサイクルにある母子の身体的・心理的な特徴と健康課題への理解を深めるとともに、その家族にも目を向けて母性看護の基礎的な実践能力を養う。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. マタニティサイクルにある母子の特徴と看護の特殊性について述べるができる。</li><li>2. 褥婦と新生児の健康状態が正常な経過をたどっているかを判断し、褥婦の全身の回復や復古を促すためのケアや新生児の健やかな成長と発達を促すためのケアを考え、実施できる。</li><li>3. 妊婦健診・出産前教育・産後健診の見学および分娩経過中の産婦のケアを通して、母子の継続看護の必要性を考え、述べるができる。</li><li>4. マタニティサイクルにある母子を対象とする社会資源の活用方法について述べるができる。</li><li>5. 施設退院後1か月以降の母子とその家族への支援の必要性を考え、述べるができる。</li><li>6. マタニティサイクルにある母子とその家族の人権ならびに生命の尊厳を守り、プライバシーに配慮した態度をとることができる(倫理的配慮ができる)。</li><li>7. 周産期病棟の管理について考えることができる。</li><li>8. 周産期医療における多職種連携・協働の重要性について考えることができる。</li></ol>				
授業計画・内容					
回	内容				
	<p>実習施設の産科外来、産科病棟、分娩室、新生児室、子育て支援センター等において、以下の内容を見学・実践することによって学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. マタニティサイクルにある母児の特徴と看護の特殊性</li><li>2. 褥婦および新生児の看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>1) 家族を巻き込む視点をふまえた個別性のある看護過程の展開</li><li>2) 妊娠期・分娩期の経過をふまえた褥婦の健康状態のアセスメント</li><li>3) 胎児期・分娩期をふまえた新生児の健康状態のアセスメント</li><li>4) 褥婦のセルフケアを活かすケアの必要性</li><li>5) 母親の母乳育児に関する意向を尊重したケアの必要性</li><li>6) 家族の新たな関係の形成を促すケアの必要性</li><li>7) 褥婦と新生児の健康診査の実施</li><li>8) 入院中の母子の生活環境を整える必要性</li></ol></li><li>3. 妊婦健診・出産前教育・産後健診の見学および分娩経過中の産婦のケアを通じた母児の継続看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>1) 妊婦および家族への看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 妊婦健診の流れの実際</li><li>(2) 妊婦の生活の実際</li></ol></li><li>2) 分娩経過中の産婦および家族への看護の必要性<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 分娩経過中の産婦および胎児の健康状態の観察</li><li>(2) 分娩経過中の産婦および胎児の適応状態の確認</li><li>(3) 産婦と家族の出産に対する思いや反応の確認</li><li>(4) 分娩の安全・安楽につながるケアや環境の実際</li></ol></li><li>3) 施設退院から1か月までの母子に必要なケア</li></ol></li><li>4. マタニティサイクルにある母子を対象とする社会資源の活用方法</li><li>5. 施設退院後1か月以降の母子とその家族への支援の必要性</li><li>6. マタニティサイクルにある母子とその家族に対する倫理的配慮</li><li>7. 周産期病棟の管理</li><li>8. 周産期医療における多職種連携・協働の重要性</li></ol>				
教科書					
参考図書等	<p>中込 さと子他編:ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版) 小林 康江他編:ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践(メディカ出版) 森 恵美他:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論(医学書院) 荒木 奈緒他編:ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術(メディカ出版) 仁志田 博司:新生児学入門(医学書院) 荒木 勤:改訂第22版 最新産科学 正常編(文光堂) 荒木 勤:改訂第22版 最新産科学 異常編(文光堂) 井上 裕美他編:病気がみえるvol10 産科(MEDIC MEDIA) その他適宜提示予定</p>				
評価指標	看護実践内容・記録物 100%				

関連科目	疾病・障害論IV、母性看護学概論、母性看護方法論、母性看護方法論演習
教員から学生へのメッセージ	妊婦・産婦・褥婦や新生児および家族へのよりよい看護ケアのあり方について実践を通して学びましょう。 女性や新生児が持つすばらしい能力を学ぶことができるはずです。